



潜在化しているニーズに
適切な情報を届ける拠点を目指して

株式会社アシテック・オコ 小林 大作



INDEX

- 1.連携拠点の体制
- 2.普及に向けて今年度に取り組む事業
- 3.当事者への対応から考える拠点のあり方
- 4.来年度以降に向けてのあり方

I. 連携拠点の体制



アシテック・オコ

- ・ つばめ在宅クリニック
- ・ 和歌山県立医科大学附属病院
脳神経内科 ALSクリニック

- ・ 一般社団法人 幹
- ・ 特定非営利活動法人near
- ・ 紀いけあ
- ・ 和歌山県医療的ケア児等支援センター

保健所、特別支援学校、福祉用具貸与事業、職能団体

当事者だけでなく、支援者も含めて情報を届ける

難病患者

医療的ケア児

障害児・者

2. 普及に向けて今年度に取り組む事業

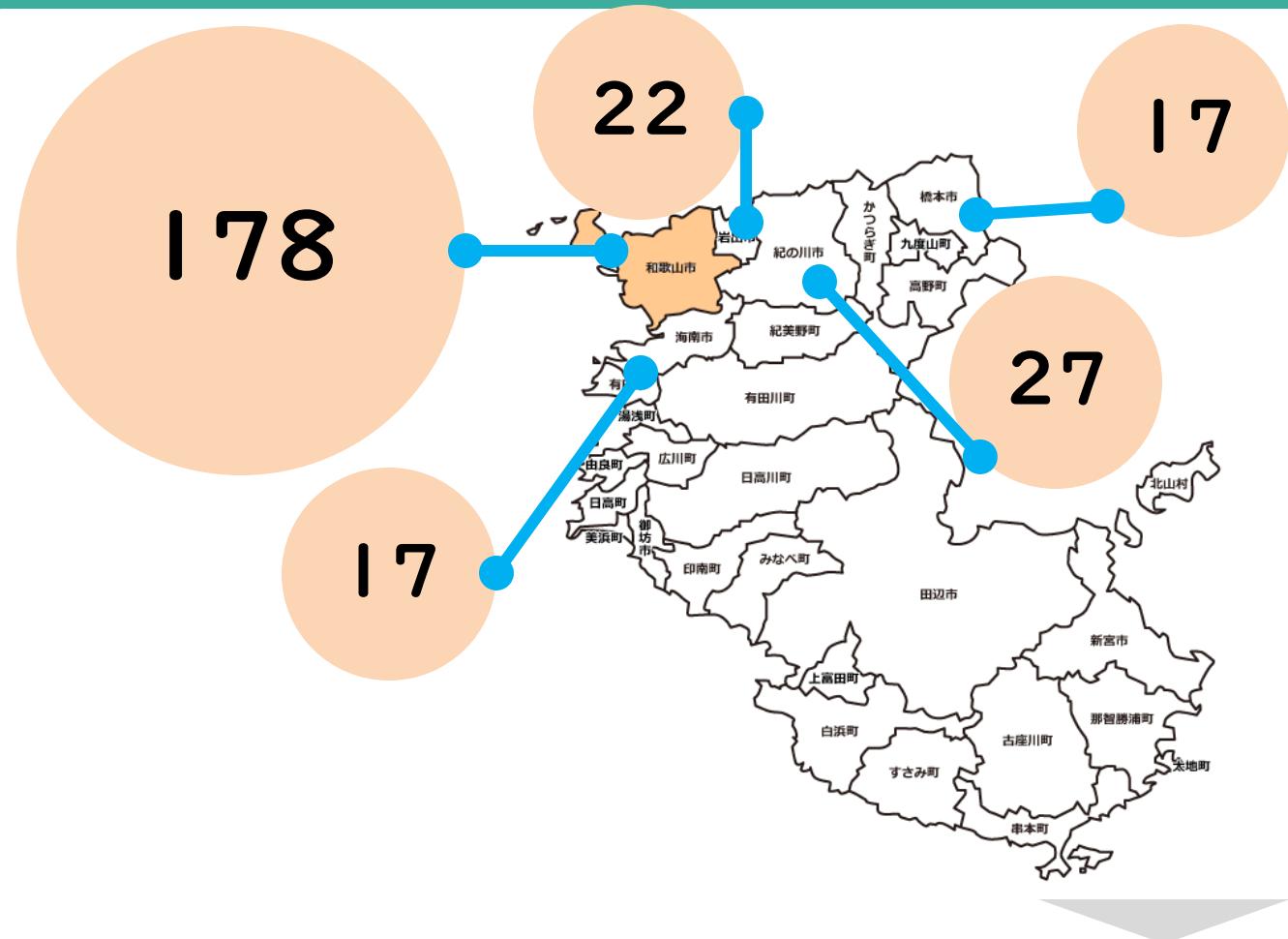


「情報」に着目して、
普及に向けての
ボトルネックを考える

(予定)

相談支援専門員を対象にアンケート調査
福祉機器点や家族会などへの協力とアンケート調査
難病患者への支援機器の研修会の開催と受講者へのアンケート調査
特別支援学校、保健所、職能団体と連携を協議

わかやま子どもの福祉機器ラボ2025



参加者数

261 / 287

定点的な拠点の限界が推察できる

和歌山県医療的ケア児等支援センター主催 家族交流会



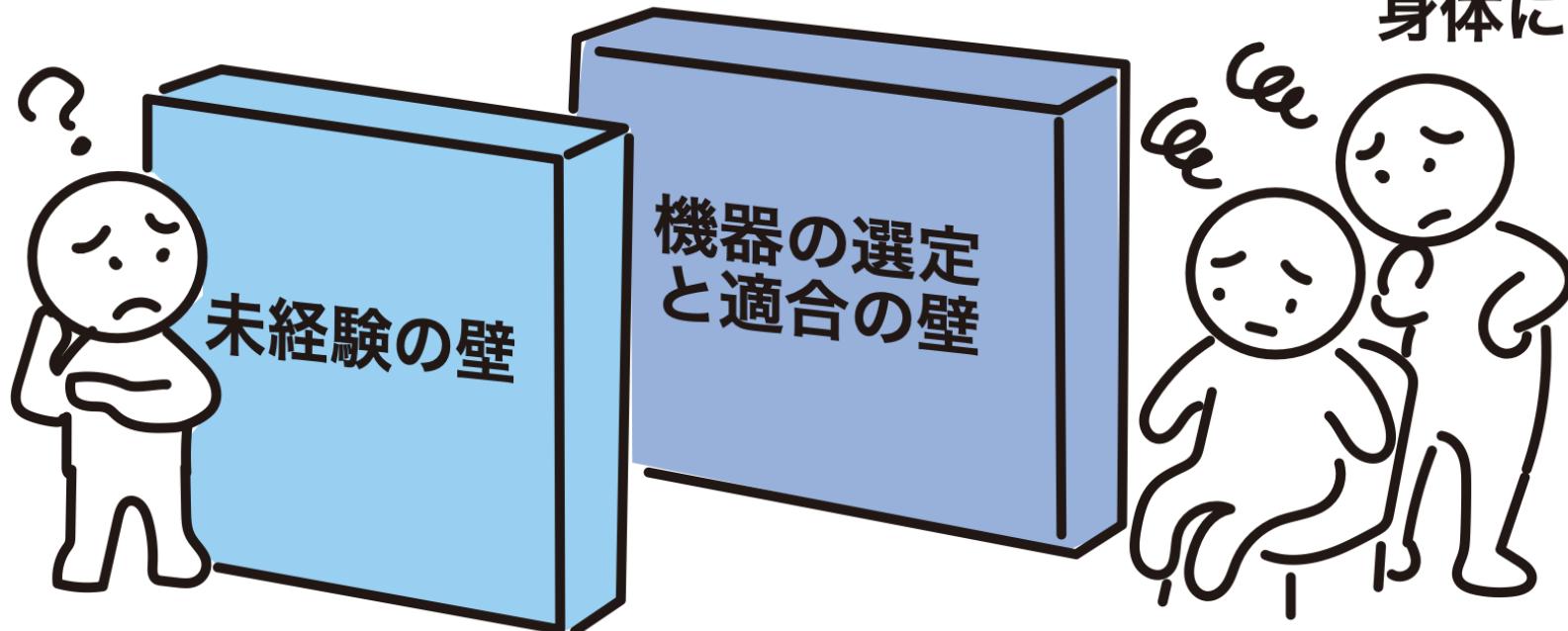
当事者・支援者で作るコミュニティへの参画

コミュニティを通じた相談窓口を作る

アンケートから見えてくること

経験していないことは言語化できない

何ができるか
わからない



支援したい
ことがわか
らない

3. 当事者への対応から考える拠点のあり方



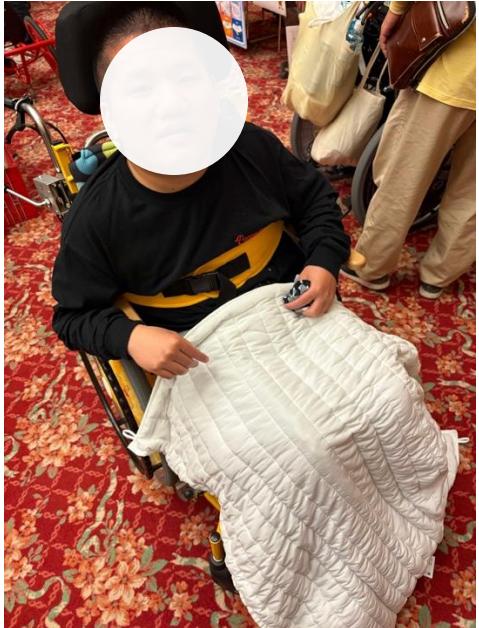
支援技術が蓄積されている
支援機器



支援技術を蓄積し始めた
支援機器

それぞれで求められるあり方が異なる

支援技術が蓄積されている支援機器



介助が大変で
リフトを検討

訪看より紹介
されて相談



車椅子での姿勢
を改善。飲水
できるように

母親がSNSで
知り相談

標的課題への対応を見立て、直接支援者と連携

支援技術を蓄積し始めた支援機器



勉強をもっと
やりやすく
(四国から相談)

自分でエアコン操作が
できるようになりたい
(九州から相談)

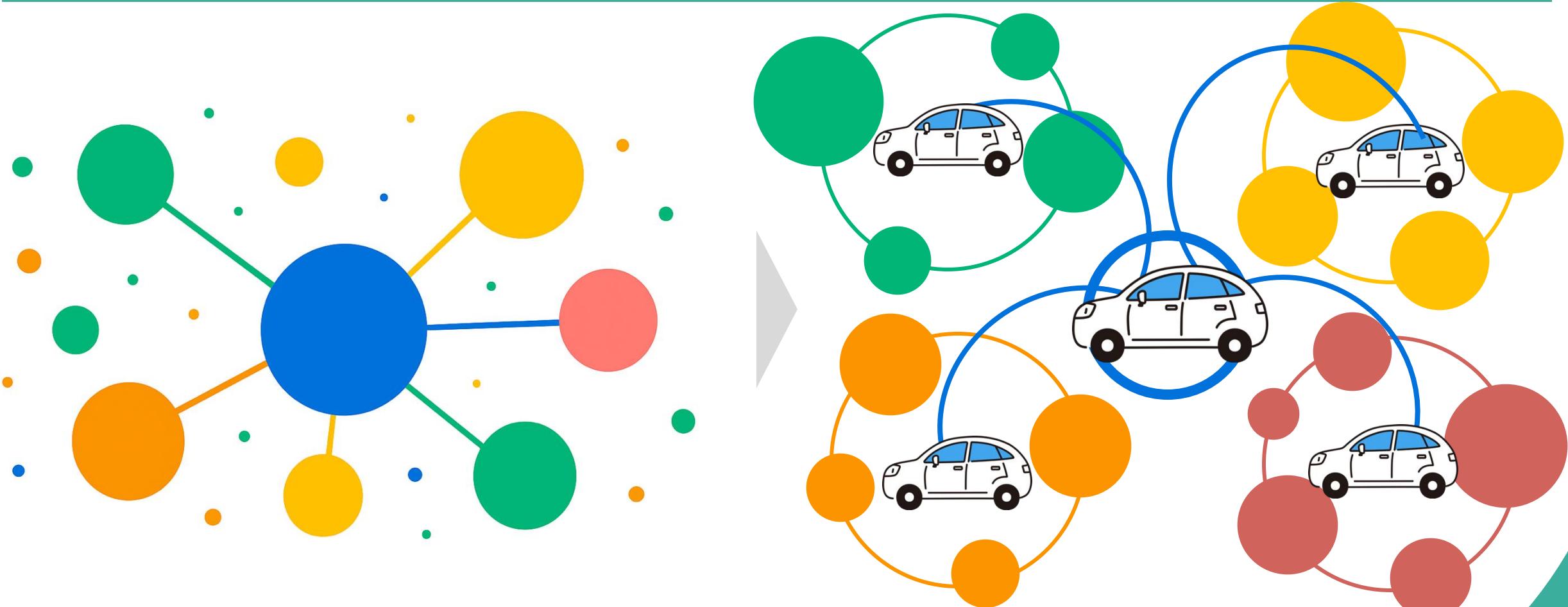
支援技術を蓄積し始めた支援機器



ゲームが快適に
プレイできるよう
(東京から相談)

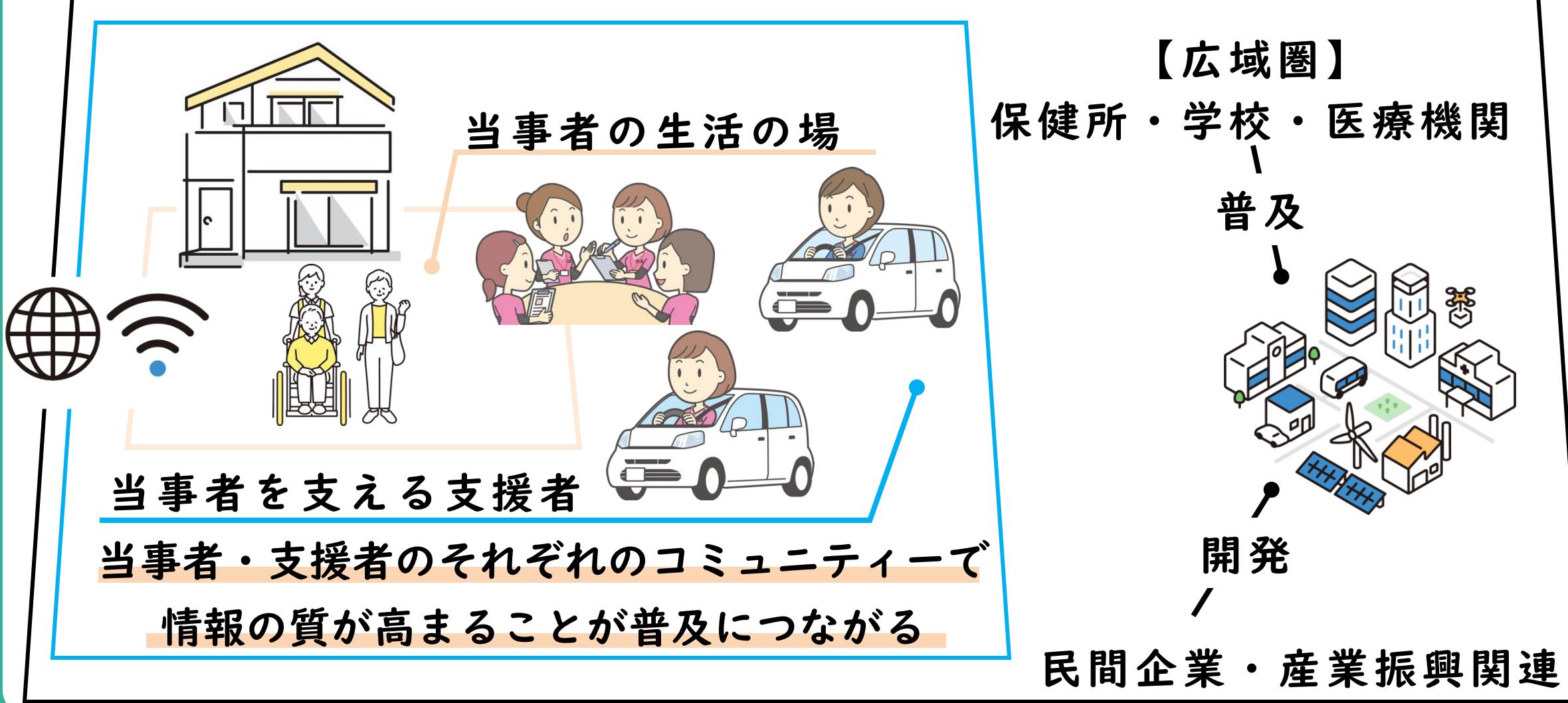
専門的かつ社会保障での対応が難しい場合も多く、
直接支援の役割を担いつつ見立てを立てる

4. 来年度以降に向けてのあり方

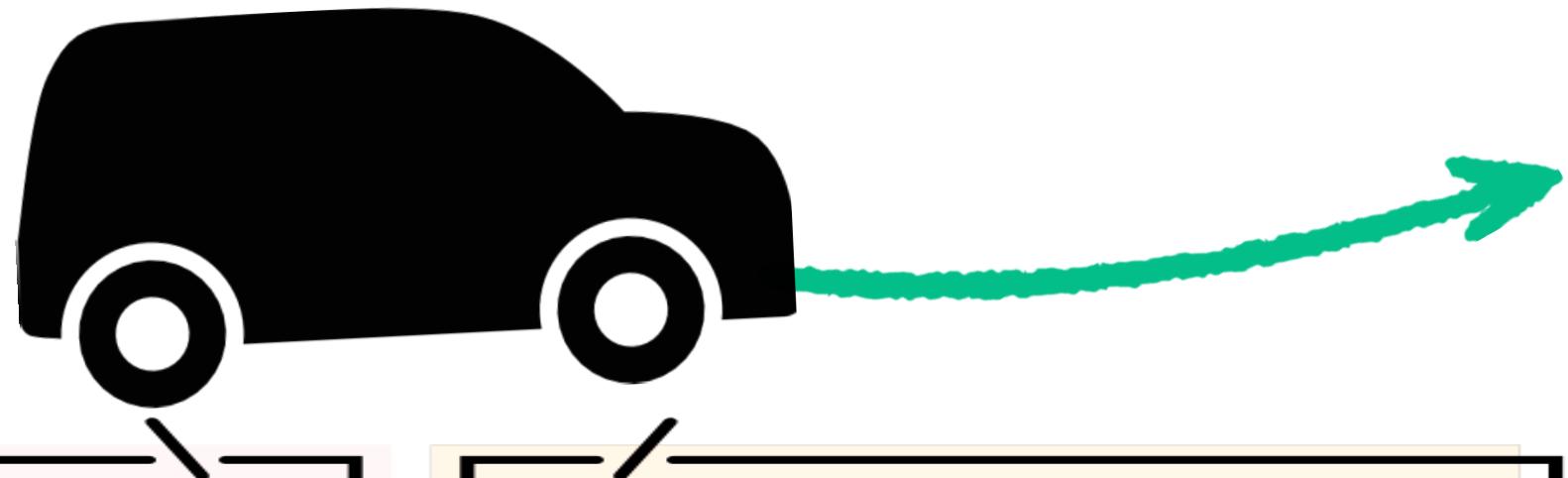


当事者の生活の場に近いコミュニティを窓口に

広域圏の保健所や特別支援学校との連携を目指す



地域特性に応じた連携拠点の実現に向けて



- ・ 安定した財源基盤のもとでの計画の推進
- ・ 専門性を備えた人材の確保
- ・ 地域を支える専門人材の育成

- ・ 当事者が情報を得て、相談できるネットワークの構築
- ・ 支援者から提供される情報の量と質の向上
- ・ 特別ではなく一般の文脈での情報検索の方法の構築